

科目名 (Subject)	公共経済学 Public Economics		
単位数 (Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	天野 大輔 Daisuke AMANO	研究室番号 (Office)	337
Office Hours	本講義時間の前後とする。それ以外の場合は、事前にe-mailで連絡すること。		
<b>1. 授業目的・方法 (Course objective and method)</b>			
<p>社会科学としての近代経済学は市場メカニズムによる配分の予測だけではなく、政策当局による公共政策の示唆および税制度や所得分配の在り方を考察する際の基礎的理論である。本講義では大学院レベルの公共政策およびマクロ経済動学に関する専門的知識を習得し、先端的研究をサーベイすることを目的とする。</p> <p>特に、内生的経済成長理論を中心とするマクロ経済動学の分析手段を応用しつつ、公共経済学および財政学の重要なトピックの一つである公共投資あるいは所得再分配政策に関する経済政策やその波及効果を学ぶことを本講義の目的とする。さらに、内生的な持続的成長経済を前提として、政府が公共投資や税政策を実施・変更した際に、長期的成長率や所得分配に与える比較静学を分析することによって、理論モデルによる思考実験を通じた将来予測に関する経済学的な示唆を考察することも本講義の目的とする。</p>			
<b>2. 授業内容 (Course contents)</b>			
<p>本講義は、経済学科卒業レベルのミクロ・マクロ経済学および経済数学の専門的知識を前提として、ゼミ形式（輪読形式）で行われる。履修者には以下で指定した海外のテキストを輪読・発表してもらう。具体的には、毎回、事前に決められた報告担当者に口頭（日本語）でテキストの内容を発表・解説してもらう。したがって、本講義は履修者全員の出席を前提とし、特に口頭発表の担当者の無断欠席は厳禁とする。1度でも無断欠席をした場合は、成績評価において不可の対象に十分になりえるものとする。</p>			
<b>3. 使用教材 (Teaching materials)</b>			
<p>輪読形式で実施される本講義の使用教材は、現時点では以下のいずれかを予定している。優先順位と併せて列挙しておく。また、取り扱うトピックによっては、論文を教材として指定することもあり得る。</p>			
① Pierre-Richard Agénor (著)			
“Public Capital, Growth and Welfare”, Princeton Univ Press (2014)			
② Philippe Aghion and Peter Howitt (著)			
“The Economics of Growth”, The MIT Press (2009)			
③ Giuseppe Bertola, Reto Foellmi, and Josef Zweimuller (著)			
“Income Distribution in Macroeconomic Models”, Princeton Univ Press (2005)			
<b>4. 成績評価の方法 (Grading)</b>			
<p>上記のテキストを輪読・解説する際の、口頭発表（プレゼンテーション）のパフォーマンスで主に評価する。また、出席数は当然のこととして、議論への参加度や、課題（テキストの練習問題など）の実施状況からも評価する。</p>			
<b>5. 成績評価の基準 (Grading Criteria)</b>			
<p>上記の「成績評価の方法」に従い、得点に換算して評価（秀・優・良・可・不可のいずれか）する。それ以外の課題については、「経済学コースにおける成績評価の統一基準」に従う。</p>			
<b>6. 履修上の注意事項 (Remarks)</b>			
<p>上記の大学院レベルのテキストを報告・解説するためには、事前の入念かつ詳細な準備や下調べが必要である。ゆえに、大学院1年生、少なくとも経済学科卒業レベルのミクロ・マクロ経済学の専門的知識だけでなく、（経済）数学の知識も必要とするので、履修には十分に注意すること。また、講義や掲示（連絡）などは日本語で行う。担当教員の連絡先となる e-mail address は次の通り。 <a href="mailto:amano@res.otaru-uc.ac.jp">amano@res.otaru-uc.ac.jp</a></p>			